

## 【プレゼンテーション資料】

# 2016年度中間期 連結業績 および ソニー生命の2016年9月末MCEV

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 2016年11月14日

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

<ネットカンファレンス(電話会議)による決算説明会>

日時:2016年11月14日(月) 16:00~17:00 内容:「2016年度中間期 連結決算説明会」 発表者:ソニーフィナンシャルホールディングス

常務取締役 清宮 裕晶

ソニーフィナンシャルホールディングス 清宮 でございます。

ただ今より、お手元のプレゼンテーション資料に沿って、当社グループの2016年度中間期連結業績についてご説明いたします。

スライド4をご覧ください。

## Sony Financial Holdings 目次 ■2016年度中間期連結業績 P.3 ■2016年度連結業績予想 P.29 ■ソニー生命の2016年9月末MCEVおよびESR P.31 ■参考情報 P.34

免責事項:
このプレゼンテーション資料に記載されている、ソニーフィナンシャルグループの現在の計画、見通し、戦略、侵信などのうち、過去の事実でないものは、将来の業績に関する見通しや試算です。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「精持」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその頻報語を用いたものに限定されません。口頭または書篇による見通し情報は、広く一般に関示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの見通しまたは試算に関する情報は、現在入事可能な情報から得られたソニーフィナンシャルグループの経営者の板定、決定ならびに判断に基づいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりるため、これら業績見通しのみに全面的に依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、得来の事象、その他の結果にかかわらず、ソニーフィナンシャルグループが将来の見通しや試算を見直して改訂するとは限りません。マニーフィナンシャルグループはそのような義務を負いません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わずいかなる投資勧請またはそれに類する行為のために作成されたものでもありません。

※本資料掲載情報は、特に記載のない間り、数値は表示単位未満は切捨て、比率や増減率は的捨苦人で表示しています。 また、増減率が1,000%を超える場合や比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合は「-J表示しています。 ※「ライフブランナー」はソニー生命の登録商権です。



# 2016年度中間期連結業績

1			
1			
1			
1			
1			
1			
1			
1			
1			
1			
1			
1			
1			
1			
1			

# 連結業績ハイライト①





	(億円)	FY15.1H	FY16.1H	前年	同期比
生命保険事業	経常収益	5,964	5,645	Δ319	Δ5.3%
	経常利益	225	322	+96	+42.8%
接害保険事業	経常収益	482	502	+20	+4.2%
	経常利益	27	33	+6	+22.6%
	経常収益	190	186	Δ4	Δ2.1%
設行事業	经常利益	34	17	Δ16	△47.5%
E O IN (WA)	経常収益	Δ14	△15	Δ0	-
その他(※1)	経常利益	1	Δ2	Δ3	
	経常収益	6,622	6,319	∆303	Δ4.6%
グループ連絡	经常利益	288	371	+82	+28.7%
	観会社様主に 帰属する 中間純利益	191	251	+59	+31.2%

(※1)主として持株会社(連結財務議表提出会社)に係る摘益。なお、FY16 1Qより介護事業を含む。
(※2)包括利益: FY15.1H・・・164億円、FY16.1H・・・189億円

	(億円)	16.3末	16.9末	前年点	(末比
グループ連結	純資産	6,043	5,986	Δ57	Δ0.9%
	総資産	103,521	107,446	+3,925	+3.8%

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

j

まず、当社グループの連結業績についてご説明いたします。

連結経常収益は、生命保険事業および銀行事業において減少、損害保険事業において増加した結果、前年同期に比べ4.6%減少の6,319億円となりました。

連結経常利益は、生命保険事業および損害保険事業において増加、銀行事業において減少した結果、前年同期に比べ28.7%増加の371億円となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益は、経常利益が増加したことにより、前年同期に比べ31.2%増加の251億円となりました。

スライド6をご覧ください。

# 連結業績ハイライト②



5

### <前年同期比分析>

- ■生命保険事業:保有契約高は堅調に推移したものの、一時払保険料の減少にともない保険料等収入が減少したことにより、経常収益は前年同期に比べ減少しました。経常利益は、一般勘定における有価証券売却益が減少したものの、変額保険の新契約獲得にともなう最低保証に係る責任準備金繰入額が大きく減少したことにより、前年同期に比べ大幅に増加しました。
- 損害保険事業: 主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことに加え、有価証券売却 益が増加したことにより、経常収益は前年同期に比べ増加しました。経常利益は、前述の有価証券 売却益の増加により、前年同期に比べ増加しました。
- 銀行事業: 好調な住宅ローン残高の積み上がりにより貸出金利息が増加したものの、有価証券利息配当金が減少したことなどにより、経常収益は前年同期に比べ減少しました。経常利益は、金利低下の影響に加え、カードローンに係る広告宣伝費などの営業経費の増加、外貨・投資信託の取引減少により、前年同期に比べ大幅に減少しました。
- ■連結経常収益は、生命保険事業および銀行事業において減少、損害保険事業において増加した結果、6,319億円(前年同期比4.6%減)となりました。連結経常利益は、生命保険事業および損害保険事業において増加、銀行事業において減少した結果、371億円(前年同期比28.7%増)となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、経常利益が増加したことにより、251億円(前年同期比31.2%増)となりました。

## ソニー生命 業績ハイライト(単体)





- ・前年同期比減収増益。◆保険料等収入は、一時払保険料が減少したことにより、減
- 少。 ◆ 資産運用収益は、一般勘定における利息及び配当金等収
- 入は増加したものの、有価証券更知益の減少により、減少。 ◆ 経常利益は、一般勘定における有価証券売却益が減少した ものの、変額保証の新契的獲得にともなう最低保証に係る 責任準備金級入額が大きく減少したことにより、前年同期に 比べ、大幅に増加。

	(億円)	(億円) FY15.1H		前年問期比	
80.78	t et al	5,963	5,644	Δ319	Δ5.4%
	保放料等位人	5,087	4,774	Δ313	Δ6.2%
-1	资库通用收益	844	804	∆39	Δ4.7%
- 1	うち利息及び配換金等収入	098	722	+24	+3.59
- 1	うち全銭の信託運用音	61	22	∆39	Δ63.79
- 1	うち有情証券売総装	65	13	Δ52	△80.31
	55金融減生商品収益	10	45	+29	+173.09
813	<b>東</b> 州	5.734	5,312	△422	Δ7,49
	保険会等支払会	1,731	1,633	△97	Δ5.61
1	責任準備全等接入額	2,872	2,441	△431	Δ15.09
- [	資度連用費用	356	406	+49	+13.85
- [	うち特別和定省改運用格	319	321	+1	+0.61
	本里教	656	700	+44	+0.81
82.8	HE	228	332	+103	+45.29
中放	144日最	148	228	+79	+53.6%

(億円)	16.3.K	16.90K	前年度末比	
有值提券报英	72,733	76,010	+3.276	+4.5%
責任準備金務高	73,365	75,806	+2,441	+3.3%
<b>阿索在</b>	4,821	4,855	+33	+0.7%
その他有機証券評価差額金	1,506	1,443	∆62	Δ4.1%
11 東京	80,354	83,652	+3,297	+4.1%
特別和定貨在	8,503	8,566	+63	+0.7%

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

- 1

ソニー生命の業績のハイライトをご説明いたします。

経常収益は、一時払保険料の減少にともない保険料等収入が減少したことにより、前年同期に比べ5.4%減少の5.644億円となりました。

経常利益は、前年同期に比べ45.2%増加の332億円となり、大幅な増益となりました。これは、一般勘定における有価証券売却益が減少したものの、変額保険の新契約獲得にともなう最低保証に係る責任準備金繰入額が大きく減少したことによるものです。

中間純利益は、前年同期に比べ53.6%増加の228億円となりました。

スライド7では、ソニー生命の主要業績指標を記載しております。

続きまして、スライド8をご覧ください。

# ソニー生命 主要業績指標(単体)



(億円)	FY15.1H	FY16.1H	增減率
新契約高	26,150	24,490	△6.3%
解約·失効高	9,515	9,225	△3.0%
解約·失効率	2.33%	2.14%	△0.19pt
保有契約高	421,430	441,144	+4.7%
新契約年換算保險料	430	387	Δ10.0%
うち第三分野	73	81	+9.7%
保有契約年換算保険料	7,591	7,996	+5.3%
うち第三分野	1,761	1,840	+4.5%

## <主な増減要因>

◆ 米ドル建保険、定期保険、生前給付保険 の販売が好調であったものの、支額保険 の販売減少により、減少。

◆ 定期保験、米ドル建保験、生前給付保験 の販売が好調であったものの、変額保険 および学資保険の販売減少により、減少。

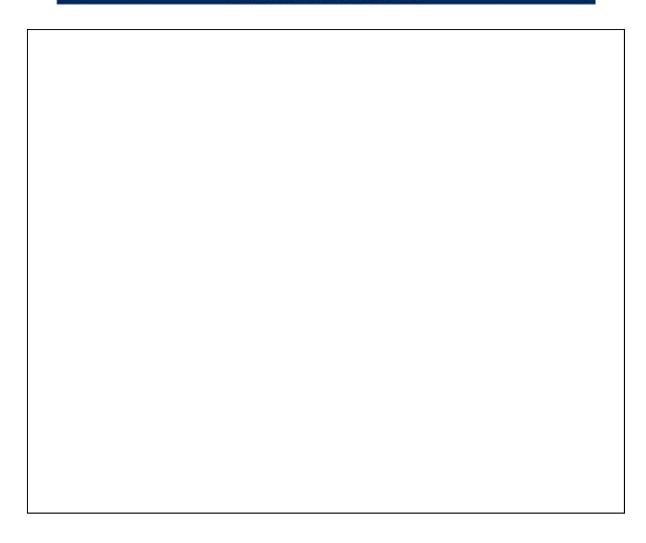
(注) 新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約率差算保額料、保有契約申後算保限制は、個人保証 個人用金額額の含計、解約・失効率は、契約高の減額または物級および信息を含めない解約・失効高を何度地の 成立が助った時、た金

(使円)	FY15,1H	FY16.1H	增減率
資産運用損益(一般勘定)	807	720	△10.8%
基礎利益	144	306	+112.2%
順ざや額	73	65	Δ11.0%

 
 単体 ソルベンシー・マージン比率
 16.3束
 16.9束
 前年度末比

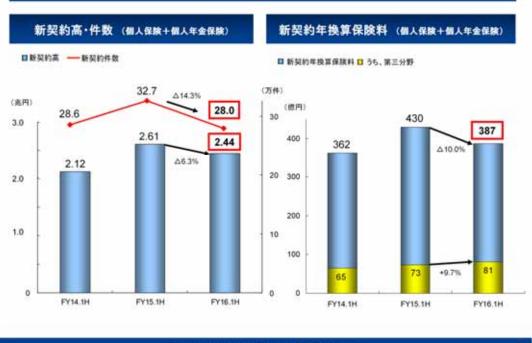
 2,722.8%
 2,774.4%
 +51.6pt
 ◆ 順さや額が減少したものの、変額保険の 新契約獲得にともなう最低保証に係る責 任準備金繰入額が大きく減少したことや、 保険金の支払いが減少したことにより、 大幅に増加。

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved



## ソニー生命の業績(単体)①





## Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

8

### (左側のグラフ)

棒グラフで示しております新契約高は、前年同期に比べ6.3%減少の2兆4,490億円となりました。

これは、米ドル建保険、定期保険、生前給付保険の販売が好調であったものの、変額保険の販売が減少したことによるものです。

また、折れ線グラフで示しております新契約件数は、前年同期に比べ14.3%減少の28万件となりました。

#### (右側のグラフ)

新契約年換算保険料は、定期保険、米ドル建保険、生前給付保険の販売が好調であったものの、変額保険および学資保険の販売減少により、前年同期に比べ10.0%減少の387億円となりました。

このうち第三分野は、前年同期に比べ9.7%増加の81億円となりました。

スライド9をご覧ください。

## ソニー生命の商品構成





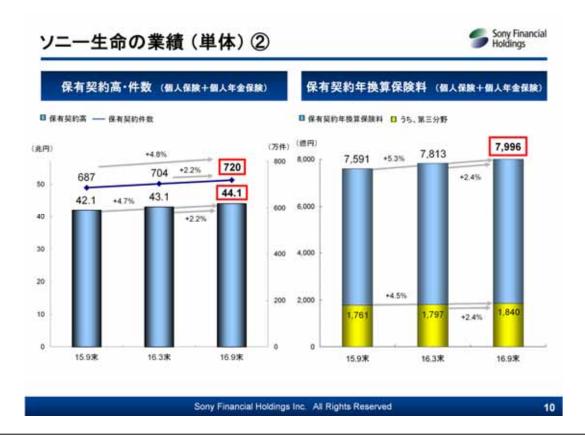
この円グラフはソニー生命の新契約年換算保険料の商品構成となります。

## (右側のグラフ)

低金利環境下において、米ドル建終身保険および定期保険の提案力の強化を進めてまいりました。

第2四半期では、米ドル建終身保険は8%、定期保険を含む保障性商品は51%となり、着実に商品構成における保障性商品の占率が上がってきています。

次のスライドをご覧ください。



新契約および解約・失効等を織り込んだ保有契約の状況について、ご説明いたします。

## (左側のグラフ)

棒グラフで示しております保有契約高は、前年同期末に比べ4.7%増加の44兆1千億円となりました。

折れ線グラフで示しております保有契約件数は、前年同期末に比べ4.8%増加の720万件となりました。

## (右側のグラフ)

保有契約年換算保険料は前年同期末に比べ5.3%増加の7,996億円となりました。このうち第三分野は、前年同期末に比べ4.5%増加の1,840億円となりました。

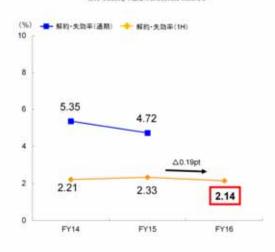
スライド11をご覧ください。

# ソニー生命の業績 (単体) ③





\*解約・失効率は、契約高の減額または暗額および復活を含めない 解約・失効高を年度地の保有契約高で除した辛



Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

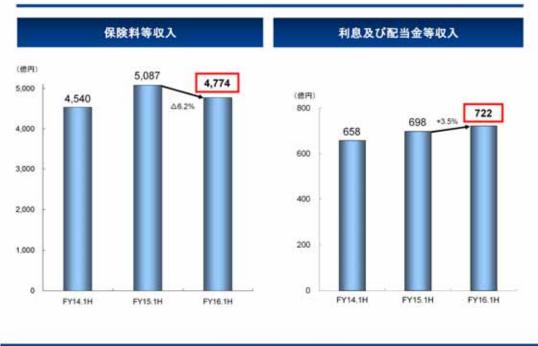
44

解約・失効率は、前年同期に比べ0.19ポイント低下の2.14%となりました。

続きまして、スライド12をご覧ください。

# ソニー生命の業績(単体)④





## (左側のグラフ)

保険料等収入は、一時払保険料が減少したことにより、前年同期に比べ6.2%減少の 4,774億円となりました。

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

## (右側のグラフ)

利息及び配当金等収入は、業容拡大による運用資産の拡大にともない、 前年同期に比べ3.5%増加の722億円となりました。

次のスライド13をご覧ください。

## ソニー生命の業績(単体)⑤





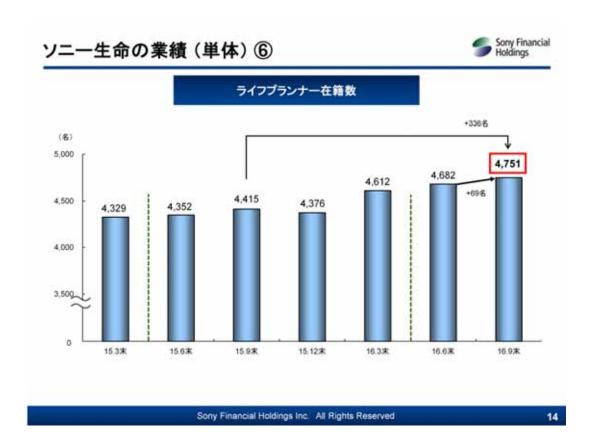
## (左側のグラフ)

基礎利益は、順ざや額が減少したものの、変額保険の新契約獲得にともなう 最低保証に係る責任準備金繰入額が大きく減少したことや、保険金の支払いが 減少したことにより、前年同期に比べ112.2%増加の306億円となりました。

## (右側のグラフ)

経常利益は、変額保険に係るヘッジ損益を除くキャピタル損益が減少したものの、基礎利益の大幅な増加により、前年同期に比べ45.2%増加の332億円となりました。

次のスライド14をご覧ください。



ライフプランナー在籍数は、前四半期末から69名、前年同期末から336名増加し、4,751名となりました。

ライフプランナーの採用を担う営業所長登用の積極化など、これまでの採用強化策が奏功し、陣容は着実に増加しています。

スライド15をご覧ください。

# ソニー生命の業績(単体)⑦



## 一般勘定資産の内訳

	16.	3末	16.9	末
(億円)	金額	割合	金額	割合
公社債	63,511	88.4%	65,865	87.7%
株式	333	0.5%	330	0.4%
外国公社債	701	1.0%	1,640	2.2%
外国株式等	230	0.3%	193	0.3%
金銭の信託	2,809	3.9%	2,795	3.7%
約款貸付	1,716	2.4%	1,759	2.3%
不動産(注)	1,158	1.6%	1,181	1.6%
現預金・コールローン	525	0.7%	444	0.6%
その他	864	1.2%	873	1.2%
合計	71,850	100.0%	75,085	100.0%

< 資産運用状況> 金利リスクの低減を目的として、保険契約の 持つ長期の負債特性に合わせて超長期債の 購入を継続

> (債券のDuration) 2015. 3末 20.3 年 2016. 3末 21.8 年 2016. 9末 22.0 年

- ■「金銭の信託」は主に公社債を中心に運用
- 一般勘定資産における公社債(金銭の信託で 運用されているものを含む)の実質的な構成比

2016.9末・・・91.4% (2016.3末・・・ 92.3%)

(注)「不動度」については、土地・建物・建設仮動定を合計した金額を計上しています。

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

15

前年度末と比較した、2016年9月末の一般勘定資産の内訳はご覧のとおりです。

次のスライド16をご覧ください。

## ソニー生命の資産運用の状況

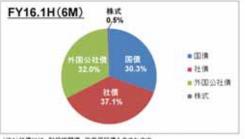






- ■負債特性に見合った資産への投資方針のもと、 運用資産の多様化を推進。
- ・超長期の社債(財投機関債等)への投資を拡大。
- ・米ドル建保険契約の増加に伴い、米国債投資を 大幅増加。





(注1)社債には、財役機関債、政府保証債も含まれます。 (注2)上記の表は対象期間の購入金額を100%とした資産配分(子間運出資・政策投資を除く)。

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

16

この円グラフはソニー生命の一般勘定資産における新規有価証券の購入配分となります。

## (右側のグラフ)

ALMの考え方に基づき、負債特性に見合った資産に投資するという ソニー生命の運用方針のもと、運用資産の多様化を進めてまいりました。

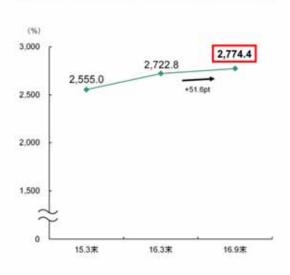
米ドル建保険の販売増加も踏まえ、上半期の資産購入は、国債は30.3%、 社債は37.1%、外国公社債は32.0%となり、国債以外への投資が増加しています。

次のスライドをご覧ください。

# ソニー生命の業績(単体)⑧







Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

17

単体ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から51.6ポイント増加の2,774.4%となり、引き続き高い水準を維持しております。

続きまして、スライド18をご覧ください。

# ソニー損保 業績ハイライト





(億円)	FY15.1H	FY16.1H	前年問期比	
経常収益	482	502	+20	+4.2%
保険引受収益	476	489	+13	+2.9%
資産運用収益	6	12	+6	+102.4%
経常費用	454	468	+13	+3.1%
保険引受費用	334	346	+11	+3.5%
資産運用費用	0	Ξ.	Δ0	△100.0%
営業費及び一般管理費	120	122	+2	+1.9%
经常利益	27	33	+6	+22.4%
中間終利益	19	24	+4	+24.4%

- ◆ 前年同期比 増収増益。
- ◆ 経常収益は、主力の自動車保線を中心に正味収入保険料が増加したことに加え、有価証券売却益が増加したことにより、増加。
- 経常利益は、有価証券売却益の増加により、増益。

(億円)	16.3束	16.9米	前年度宋比	
責任準備金務高	957	1,002	+45	+4.7%
純資産	283	285	+2	+0.9%
総資産	1,723	1,778	+55	+3.2%

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

18

ソニー損保の経常収益は、主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことに加え、有価証券売却益が増加したことにより、前年同期に比べ4.2%増加の502億円となりました。

経常利益は、有価証券売却益の増加により、前年同期に比べ22.4%増加の33億円となりました。

中間純利益は、前年同期に比べ24.4%増加の24億円となりました。

スライド19、20では、ソニー損保の主要業績指標、種目別保険引受の状況を記載しております。後ほどご覧ください。

続きまして、スライド21から、ソニー損保の業績の詳細をご説明いたします。

# ソニー損保 主要業績指標



(億円)	FY15.1H	FY16.1H	前年同	明比		<主な増減要因>
元受正味保険料	469	483		+2.9%	• –	<ul><li>◆ 主力の自動車保険を中心に増加。</li></ul>
正味収入保険料	475	489		+2.9%		
正味支払保険金	230	240		+4.4%		
保険引受利益	21	20	- 4	Δ2.1%		
正味損害率	55.9%	56.7%		+0.8pt		
正味事業費率	26.7%	26.6%		△0.1pt	•	<ul><li>事業費全般を適切にコントロールしたことにより、正妹事業費率はやや低</li></ul>
コンパインド・レシオ	82.7%	83.3%		+0.6pt		Т.
注: 正味损害率 — (正味支贴保險金+損害 正味事業費率 — 保険引受に係る事業費		184				
1,000,000	FY15.1H	FY16.1H	前年同	期比	]	◆ 支払備金戻入があった前年問題との
E.I 損害率	62.4%	63.3%		+0.9pt		<ul><li>▼ 支払舗室戻入があった前年何期とい 比較では、E.I.損害率は若干上昇。</li></ul>
E.I 損害率+正味事業費率	89.1%	89.9%		+0.8pt		Barrier
注) E ( 縣吉平 一 ( 正味支払保険金+支払賃		+既經過保險利				
	16.3末	16.9末	前年度	末比		
保有契約件数	179万件	182万件	2万件	+1.2%		
単体	693 5%	726 8%	+33.3	int.	1	

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

# ソニー損保 種目別保険引受の状況



#### 元受正味保険料

<b>九文正体体换杆</b>								
(百万	PB)	FY15.1H	FY16.1H	增減率				
火	災	199	117	Δ41.2%				
海	Ŀ	-	120	-				
<b>4</b>	*	4,321	4,388	+1.6%				
自動	車	42,442	43,814	+3.2%				
自贈	黄	_	-	-				
合計	T	46,963	48,319	+2.9%				

### 正味収入保険料

Links	本人体	RKTT		
(TE	(円代]	FY15.1H	FY16.1H	增減率
火	災	28	12	△55.0%
海	Ł	22	Δ2	-
傷	*	4,461	4,527	+1.5%
A .	1 1	42,349	43,686	+3.2%
自見	黄	712	709	△0.5%
合	21	47,574	48,934	+2.9%

#### 正味支払保険金

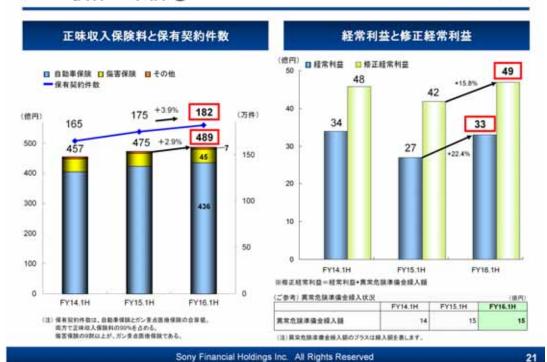
(n	万円)	FY15.1H	FY16.1H	增減率
火	災	0	4	+491.3%
海	Ł	100	Δ11	_
Œ	*	1,207	1,228	+1.7%
自動	車	21,096	22,175	+5.1%
自賠	Ħ	628	649	+3.3%
合計	+	23,033	24,046	+4.4%

(注)「傷害」にはガン党会抵疫保険が含まれる。

San	Financial Holding	s Inc. All Ric	this Reserved

## ソニー損保の業績①





## (左側のグラフ)

折れ線グラフで示しております保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合計で、前年同期末に比べ3.9%増加の182万件となりました。

棒グラフで示しております正味収入保険料は、自動車保険の販売が堅調だったことから、前年同期に比べ2.9%増加し、489億円となりました。

### (右側のグラフ)

経常利益は、先のご説明のとおりです。

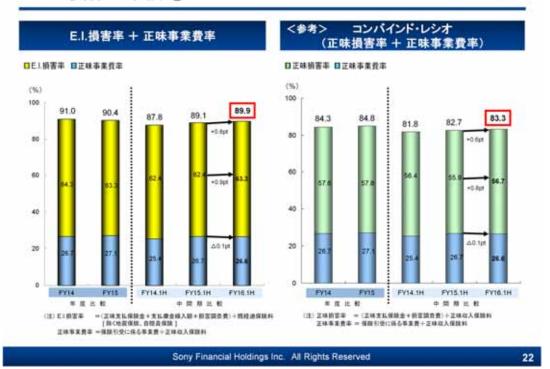
なお、修正経常利益は、経常利益から異常危険準備金繰入・戻入の影響を除いたもので、損益の実態を表すものとして社内で使用している管理指標です。

修正経常利益は、49億円となりました。

スライド22をご覧ください。

## ソニー損保の業績②





## (左側のグラフ)

E.I.損害率は、支払備金戻入があった前年同期に比べ、0.9ポイント上昇の63.3%となりました。

正味事業費率は、事業費全般の適切なコントロールにより、前年同期に比べ 0.1ポイント低下し、26.6%となりました。

この結果、E.I.損害率と正味事業費率を合わせた合算率は、前年同期に比べ 0.8ポイント上昇し、89.9%となりました。

#### (右側のグラフ)

正味損害率は、前年同期に比べ0.8ポイント上昇し56.7%となりました。 正味損害率は、支払備金繰入額を反映していないなどの点で、E.I.損害率とは 計算方法が異なります。

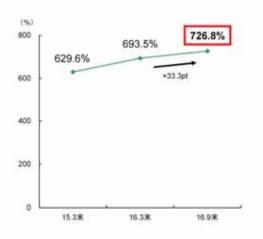
正味損害率と正味事業費率を合わせたコンバインド・レシオは、前年同期に比べ 0.6ポイント上昇し、83.3%となりました。

スライド23をご覧ください。

## ソニー損保の業績 ③







Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

23

単体ソルベンシー・マージン比率は、前年度末に比べ33.3ポイント上昇し、726.8%となりました。引き続き健全な水準を維持しています。

次のスライド24から、ソニー銀行の業績についてご説明いたします。

## ソニー銀行 業績ハイライト(連結・単体)





<雑額>

(億円)	FY15.1H	FY15.1H FY16.1H		前年問期比		
連結経常収益	190	186	Δ4	Δ2.2%		
連絡経常利益	34	17	Δ16	Δ47.7%		
観会社株主に帰属する 中間純利益	22	11	Δ10	Δ48.9%		

#### <銀行単体>

(億円)		FY15.1H	FY16.1H	前年	前年問期比	
朝	<b>東東収益</b>	175	169	Δ6	Δ3.7%	
7	<b>以 務 稿 利 益</b>	109	100	Δ9	Δ8.2%	
	資金運用収支	80	84	+3	+4.9%	
	投務取引等収支	2	Δ5	Δ7	- 1	
	その他業務収支	. 27	21	Δ5	Δ21.7%	
28	業経費	76	84	+7	+10.0%	
7	<b>務純益</b>	33	16	Δ16	Δ50.0%	
经常利益		33	16	Δ17	Δ52.0%	
4	開終利益	22	11	Δ11	Δ50.4%	

(億円)		16.3末 16.9末		前年度末比		
純沢産		774 771		Δ2	Δ0.3%	
	その他有価証券評価差額金	33	38	+4	+14.8%	
H	資産	21,265	21,900	+634	+3.0%	

# 金利低下の影響に加え、カードローンに係る広告宣伝 費などの営業経費の増加や、外貨・投資信託の取引 減少により、大幅に減少。 <銀行単体>

- ◆業務粗利益・業務総益ともに減少。
- 資金運用収支は低金利環境下においても住宅ローン の積み上げにより、増加。

◆ 経常収益は、好調な住宅ローン残高の積み上がりに より貸出金利息が増加したものの。有価証券利息配 当金が減少したことなどにより、減少。経常利益は、

- ・役務取引等収支は投資信託の販売が低調に推移した
- ことや支払保証料の増加により、減少。 その他業務収支は顧客の外貨取引にともなう手数料
- 収入が減少したことなどにより、減少

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

ソニー銀行の連結経常収益は前年同期に比べ2.2%減少の186億円、 連結経常利益は前年同期に比べ47.7%減少の17億円となりました。

経常収益は、好調な住宅ローン残高の積み上がりにより貸出金利息が増加した ものの、有価証券利息配当金が減少したことなどにより、減少しました。

経常利益は、金利低下の影響に加え、カードローンに係る広告官伝費や 住宅ローンの実行増加にともなう営業経費の増加や、顧客の外貨・投資信託の 取引減少により、大幅に減少しました。

ソニー銀行単体も、連結同様の要因により減収減益となりました。 業務粗利益は、前年同期に比べ8.2%減少の100億円となりました。 業務純益は、前年同期に比べ50.0%減少し、16億円となりました。

スライド25では、ソニー銀行の主要業績指標を記載しております。

スライド26をご覧ください。

# ソニー銀行 主要業績指標(単体)①



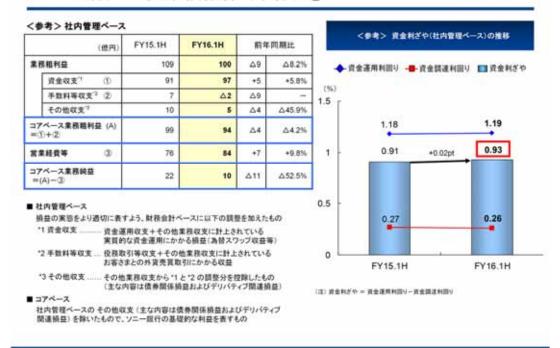
				1				<主な増減要因>
		(使用)	15.9末	16.3末	16.9末	前年	度末比	
H	かり	<b>克度残高</b>	19,157	20,344	20,957	+613	+3.0%	1
	预	± -	17.952	19,235	19,896	+661	+3.4%	<ul><li>◆ 円預金残高は、主に定期預金の増加により、増加。</li></ul>
		円預金	14,764	15,879	16,497	+617	+3.9%	7 =====
		外貨預金	3,187	3,355	3,399	+43	+1.3%	◆ 外貨預金残高は、為替市場が円高に接 れたことにともなう円換算の影響があっ
	投資信託	1,205	1,109	1,061	△47	Δ4,3%		
W	貨出金務高	残高	12,667	13,441	14,606	+1,165	+8.7%	<ul> <li>         ◆ 貸出金は、住宅ローンの伸びにより、残 高増加。     </li> </ul>
	住	キローン	11,544	12,371	13,629	+1,257	+10.2%	
	カ	-ドローン	61	105	153	+48	+46.2%	1
	ŧ	の他	1,061	965	823	Δ141	Δ14.7%	1
口座数 不良債権比率 <sup>つ</sup> (金融再生法開示債権ペース)		El .	108万件	113万件	119万件	+5万件	+4.9%	1
			0.25%	0.23%	0.21%	Δ0	.02pt	
自己資本比率 <sup>13</sup> (国内基準)		10.58%	9.89%	9.57%	△0.32pt		1	

1 うち紀3項門は注人向け2 不良債務(金融再生法関係債務)/配与債額20ページの自己資本此事(國内基準)の情報ご参照



## ソニー銀行 主要業績指標(単体)②





Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

26

このスライドでは、ソニー銀行の本業における収益力をより適切にご理解いただくため に、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明いたします。

## (左側のテーブル)

資金収支は、低金利環境下においても住宅ローンの積み上げにより、前年同期に比べ 5.8%増加の97億円となりました。

手数料等収支は、顧客の外貨・投資信託の取引が減少したことに加えて、 支払保証料が増加したこともあり、9億円減少のマイナス2億円となりました。

その結果、コアベース業務粗利益は、前年同期に比べ4.2%減少の94億円、コアベース業務純益も52.5%減少の10億円となりました。

#### (右側のグラフ)

青い折れ線グラフで示しております資金運用利回りは、1.19%となりました。 赤い折れ線グラフで示しております資金調達利回りは、0.26%となりました。 その結果、棒グラフで示しております資金利ざやは、0.93%となりました。

スライド27をご覧ください。

## ソニー銀行の業績(単体)①



27



業容の推移について、前年度末からの増減をご説明いたします。

#### (左側のグラフ)

預金残高は前年度末に比べ661億円増加し、1兆9,896億円となりました。 うち、円預金の残高は、主に定期預金が増加し、前年度末に比べ617億円増加の1兆 6,497億円となりました。

また、外貨預金の残高は、為替市場が円高に振れたことにともなう円換算の影響が あったものの、前年度末に比べ43億円増加の3,399億円となりました。

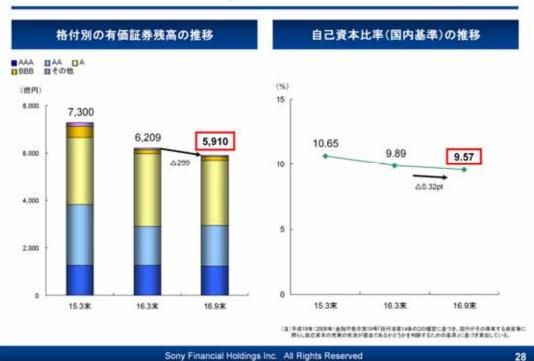
## (右側のグラフ)

貸出金残高については、住宅ローンが好調に増加し、前年度末に比べ1,165億円増加 の1兆4,606億円となりました。

スライド28をご覧ください。

# ソニー銀行の業績(単体)②





## (左側のグラフ)

有価証券残高は、前年度末に比べ299億円減少し、5,910億円となりました。 引き続き、高格付の債券を中心に運用しております。

## (右側のグラフ)

自己資本比率は、9.57%となりました。

前年度末に比べ0.32ポイントの減少となりましたが、引き続き健全な財務基盤を 維持しております。

以上で、3社の業績のご説明を終わります。

続きましてスライド30をご覧ください。



# 2016年度連結業績予想

## 2016年度連結業績予想



#### 連結業績予想については2016年4月28日に公表した数値から変更なし

(徳円)	FY2015 (通期実績)	FY2016 (通期予想)	前年度比	FY16.1H (中間期実績)	進步率
連結経常収益	13,620	14,500	+6.5%	6,319	43.6%
うち生命保険事業	12,302	13,098	+6.5%	5,645	43.19
うち損害保険事業	969	1,016	+4.8%	502	49.59
うち銀行事業	379	379	Δ0.1%	186	49.19
連結経常利益	711	710	Δ0.1%	371	52.39
うち生命保険事業	602	625	+3.8%	322	51.69
うち損害保険事業	46	44	Δ6.0%	33	76.79
うち銀行事業	59	45	Δ24.9%	17	39.81
親会社株主に帰属する 当期純利益	433	460	+6.1%	251	.54,69

上半期の経常収益は保険料収入の減少等により期初の想定を下回ったものの、経常利益は保険金支払額の減少等により期初の想定を上回りました。通期見通しについては、下半期の保険金支払の動向、および市場環境などを勘案し、経常収益・経常利益ともに据え置きます。

■損害保険事業 上半期は、有価証券売却益の計上などにより経常利益は期初想定を上回ったが、下半期に契約帳得にともなう費用の増加などを見込むことから、 経常収益・経常利益ともに通期見通しは据え置きます。

■銀行事業
 上半期の実績はほぼ期初想定どおりに推移しており、下半期についても期初想定から大きな変更はないことから、経常収益・経常利益ともに通用見通しは据え置きます。

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

30

上半期の業績は、ほぼ期初予想どおりに進捗していることから、2016年度 連結業績 予想は、2016年4月28日に公表した数値から変更しておりません。

スライド32をご覧ください。



31

# ソニー生命の2016年9月末MCEV およびESR

2016年3月末は、終島金利を採用した手法により再評価した金額です。 2016年3月末、6月末および9月末の計算の妥当性については、第三者の検証を受けていないことに十分ご留意ください。 また、2016年6月末および9月末については、一部簡易な計算を実施しております。

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

※当バートにおいては、数値、比率ともに表示単位未満は四括五人で表示しています。

-	 	 

## ソニー生命の2016年9月末MCEV



	(億円)	16.3末	16.6末	16.9末	增減 対16.3末	增減 対16.6末
M	CEV	13,301	10,764	12,293	△1,008	+1,529
	修正純資産	20,744	26,718	21,878	+1,133	△4,841
	保有契約価値	△7,444	△15,955	△9,585	△2,141	+6,370

(億円)	FY15.4Q (3M)	FY16.1Q (3M)	FY16.2Q (3M)	FY16.1H (6M)
新契約価値	39	Δ2	50	48
新契約マージン	1.2%	△0.0%	1.6%	0.7%

- (注) 2016年6月末、9月末のMCEVの計算は、2016年3月末の前提条件から経済前提と解約・失効率をアップデート。
- (注)2016年第1四半期、第2四半期の新契約価値は、各月の新契約を各月末の経済前提で評価。2015年度第4四半期の新契約価値は、3カ月間の新契約を四半期末の経済前提で評価。
- ◆ MCEV增減要因
- ・前四半期末に比べ、金利の上昇などにより、1,529億円増加。
- ◆ 新契約価値および新契約マージン
  - 第2四半期の新契約価値は、3カ月間で50億円。新契約マージンは、金利の上昇や商品構成の変化などにより、前四半期に比べ、1.6ポイント増加。

\*日本国債レーナの推移については、参考情報P-44をご覧ください。

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

32

ソニー生命のMCEVは、金利の上昇などにより、前四半期末に比べて1,529億円増加し、1兆2,293億円となりました。

第2四半期の新契約価値は、3カ月間で50億円となりました。

また、新契約マージンは、金利の上昇や、貯蓄性商品の一部販売停止に伴う商品構成の変化などにより、前四半期に比べ1.6ポイント増加しました。

次のスライド33をご覧ください。

## ソニー生命の2016年9月末ESR



(億円)	16.3末	16.6末	16.9末
保険リスク*	9,893	12,276	10,427
市場関連リスク	3,242	2,950	3,416
うち金利リスク**	2,552	2,180	2,641
オペレーショナルリスク	314	315	313
カウンターパーティリスク	20	22	19
分散効果	△3,744	△4,145	△3,945
経済価値ベースのリスク量	9,724	11,418	10,230

(\*) Life区分、Health区分間での分散効果考慮前のリスク量です。 (\*\*) 市場製通リスク内での分散効果考慮前のリスク量です。

(億円)	16.3末	16.6末	16.9末
MCEV+フリクショナル・コスト	13,665	10,855	12,662
ESR	141%	95%	124%

- (注) 経済価値ペースのリスク量とは、ソニー生命が保有する各種リスク(保険リスク、市場整連リスク等)を、市場整合的な方法で総合的に評価したリスク総量です。
- (注) 経済価値ベースのリスク量の測定においては、1年VaR99 5%水準とし、EUソルベンシー3の標準的手法を参考にした内部モデルを採用しています。
- (注) ESRは「(MCEV+フリクショナル・コスト)/ 経済価値ベースのリスク量」です。
- ESRは、金利の上昇などにより、前四半期末に比べ、29ポイント改善。
   今後も、販売力の強化と収益性の確保を進めながら、新契約価値の積み増しにより、ESRの改善を図っていきます。

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

経済価値ベースのリスク量は、金利の上昇による保険リスクの減少などにより、 前四半期末に比べて1,188億円減少し、1兆230億円となりました。

ESRは、前四半期末から金利の上昇などにより、29ポイント改善し、 124%となりました。

今後も、販売力の強化と収益性の確保を進めながら、新契約価値の積み増しに より、ESRの改善を図っていきます。

以上で説明を終了いたします。 ありがとうございました。



# 参考情報

# その他トピックス①



35

ソニーライフ・エイゴン生命

#### ソニーライフ・エイゴン生命の概要

営業開始: 2009年12月1日

資本金: 140億円 株主: ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%

取扱商品: 変額個人年金保険

販売チャネル: ライフブランナー、および銀行等(計29社) 2016年11月14日現在

SA Reinsurance の概要

設立日: 2009年10月29日

資本金: 134億円 株主: ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50% 事業内容: 再保険業

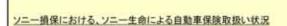
注)ソニーライフ・エイゴン生命とSA Reinsuranceは、ソニー生命とエイゴン・インターナショナルの折率出資(50:50)による合弁会社であり、持分法遣用関連会社です。

#### ソニー銀行における、ソニー生命による住宅ローンの取扱い状況

■ 2016年9月末の住宅ローン残高の20%

2016年度中間期の住宅ローン新規融資実行金額の19%

※銀行代理業務取扱い開始: 2008年1月



■ 2016年度中間期の新規自動車保険契約件数の4%

※自動車保険取扱い開始: 2001年5月





# その他トピックス②



## <2016年度第2四半期以降の主な取組み>

2016年7月1日	生産 シンガポール駐在員事務所を開設
2016年7月4日	®社 意識 本社オフィスを東京都千代田区大手町に移転
2016年8月8日	株式報酬型ストック・オブションとしての新株予約権発行内容の確定に関する お知らせの発表
2016年10月1日	## 【新商品】『無配当総合福祉団体定期保険』の発売
2016年10月3日	生保 ご契約後の各種手続のペーパーレス化を実現
2016年10月25日	<b>生保</b> クリアビュー社(オーストラリア)への出資および同社との業務提携を発表
2016年10月31日	☆ 投資信託リニューアル
2016年11月7日	Sony Bank WALLETサービス拡充  ~未成年のお客さまも外貨預金からの決済が可能に~

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

# ソニー生命の保有する有価証券(一般勘定)



## 有価証券の時価情報

#### 売買目的有価証券以外の有価証券のうち、時価のあるもの

(億円)

er 45	1	15.3末 16.3末		16.3末			16.9末		
区 分	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益
漢期保有目的の債券	48,787	57,182	8,394	53,839	74,101	20,262	57,093	78,777	21,683
責任準備金対応債券	-	-	_	2,512	2,925	413	2,703	3,167	463
その他有価証券	10,078	11,766	1,688	8,879	10,916	2,036	8,781	10,757	1,975
公社債	9,746	11,201	1,455	8,543	10,403	1,860	8,534	10,400	1,865
株式	134	294	160	136	256	120	136	245	109
外国証券	194	264	69	198	252	54	108	108	Δ0
その他の証券	3	6	3	. 1	3	- 1	1	2	1
合 1tt	58,866	68,949	10,083	65,231	87,943	22,711	68,579	92,701	24,122

(注1) 本表には、金銭の信託のうち売買目的有価証券以外のものを含んでいます。
(注2) 本表の温期保有目的の債券には、デリバティブを組み込んだ金融委員(元本確保型クーポン日経平均達動30年債)が含まれております。各期における金額は以下の通りです。

2015年3月末時点 領海価格442億円 終価575億円 差益132億円 2016年3月末時点 該当ありません。 2016年9月末時点 該当ありません。

## 売買目的有価証券の評価損益

15.3	床	16.3	3末	16.	9末
BSI1LM	PL評価模益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益
10	0	22	1	10	Δ

(注) 本表には、金銭の信託等の売買目的有価証券を含んでいます。

# ソニー生命の利配収入内訳



(百万円)

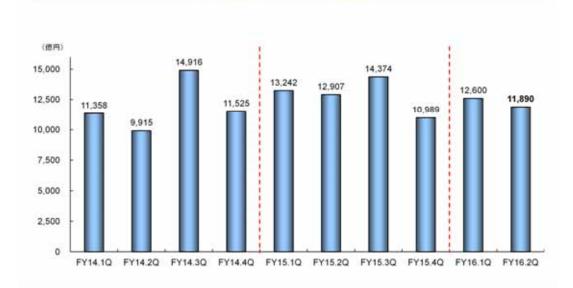
	FY15.1H	FY16.1H	前年同期比
現預金	0	0	+ 177.5%
公社債	56,333	59,830	+ 6.2%
株式	263	260	Δ1.3%
外国証券	3,982	3,512	△11.8%
その他の証券	1,041	31	△97.0%
貸付	3,056	3,171	+ 3.8%
不動産	5,135	5,430	+ 5.8%
その他	33	53	+ 60.0%
合計	69,846	72,291	+ 3.5%

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

# ソニー生命の新契約高の四半期推移





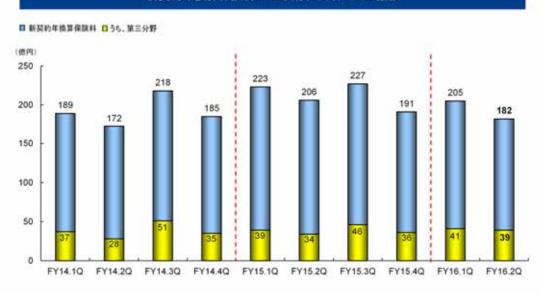


Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

# ソニー生命の新契約年換算保険料の四半期推移



## 新契約年換算保険料の四半期(3ヶ月)ごとの推移



Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

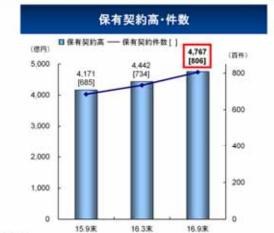


# 年金事業の業績



(ソニーライフ・エイゴン生命の新契約高及び保有契約高)



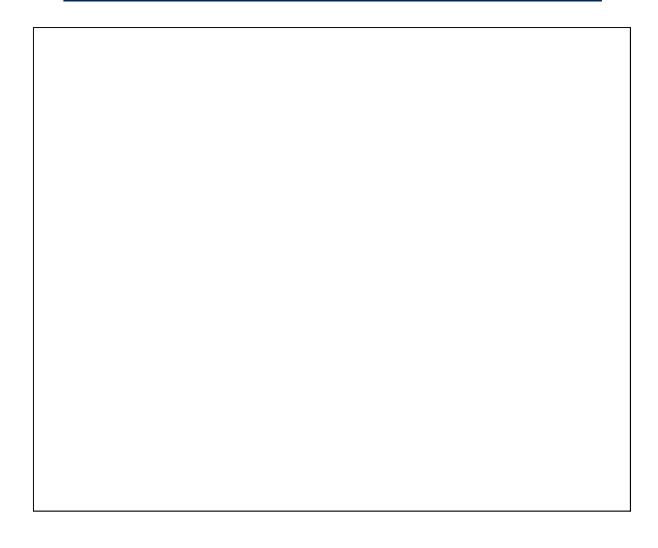


ソニーライフ・エイゴン生命およびSA Reinsurance の中間終利益 (△損失)

(億円)	FY15.1H	FY16.1H	前年同期差
ソニーライフ・エイゴン生命	Δ7	Δ19	Δ12
SA Reinsurance	Δ0	Δ3	Δ2

注: ソニーライフ・エイゴン生命とSA Reinsuranceは、ソニー生命とエイゴン・インターナショナルの哲率出資(50:50)による合弁会社であり、SFHの持分法連用関連会社です。 SA Reinsuranceの業績数値は、米国会計添削に準拠しています。SFHの概会社株主に帰属する中間純利益には上記の金額に対する特分相当(50%)が反映されています。

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved



# 経済価値ベースのリスクの測定方法①



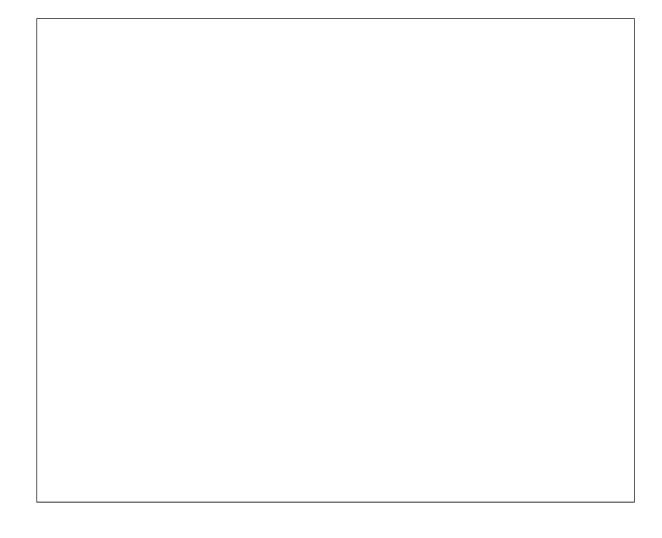
## ■ 市場関連リスク □ □

	ソニー生命	(参考) EUソルベンシーⅡ 実施基準 (Delegated Regulation) 1年から20年まで年間ごとに異なる金利の変化率を設定。 20年以降90年までは、20年の変化率ム20%を細影補関した変化率を設定。 Global 39% Others 49% (3至)		
金利リスク 右のShockを与えた時の、 経済価値検究度の変動 以下回じ。	年限と通貨ごとに異なる金利の変化率を設定。 但し、円金利は主成分分析を用いて、3つの変動要因。 (パラレルシフト、カーブのフラット化、曲がり)に分解して計画。 (例) 円30年における、それぞれの変化率は、Δ33%、Δ28%、Δ8%。			
株式リスク	上場株式 45% その他証券 70%			
不動産投資リスク	不動産 25%	詞左		
信用リスク	信用リスク=(時価)×(格付毎のリスク係数)×(デュレーション) 肉、デュレーションには格付けにより、キャップとフロアーがある。 (例) A格 リスク係数(1,4%)、キャップ(23)、フロアー(1)	信用リスク=(時価)×(格付・デュレーション毎のリスク係数 (例) A格。デュレーション(Dur):5~10年 リスク係数=7.0% + 0.7%×(Dur-5)		
為替リスク	不利な方向へ35%変化。	不利な方向へ25%変化。		

(注1) 2016年9月末現在。主要な項目。

(注2)symmetric adjustment(過去一定期間の特価インデックスの平均値を基準として $\pm 10\%$ 以内で加える調整)が適用される。

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved



# 経済価値ベースのリスクの測定方法②



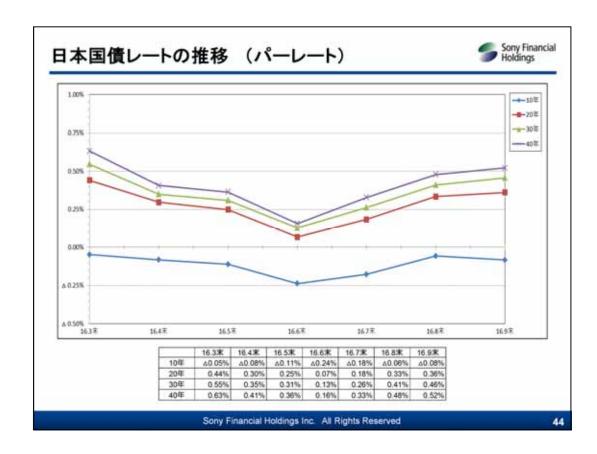
#### 保険リスク (21)

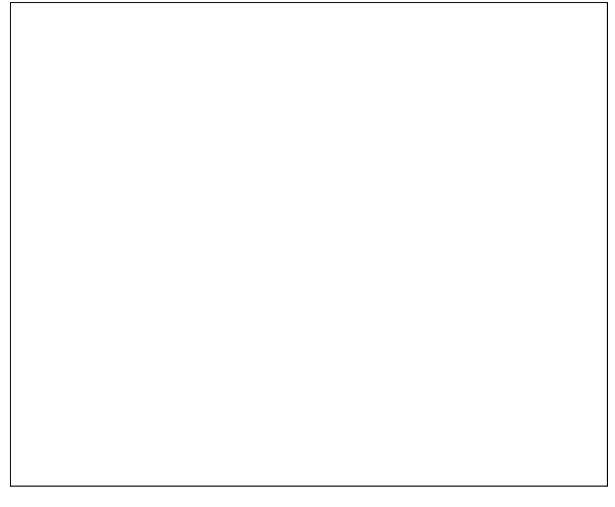
	ソニー生命	(参考) EUソルベンシー 正実施基準 (Delegated Regulation)
死亡リスク	各経過年の死亡率が15%増加。	周左
生存リスク	各経過年の死亡率が20%減少。	周左
解約リスク	・各種通年の解約率が50%増加。 ・各種通年の解約率が50%減少。 ・解約返開金が最良推定負債を上回る契約の30%が、直ちに解約。 これらの最大値(12)。	・Life区分50%増加、Health区分50%増加 ・Life区分50%減少、Health区分50%減少 ・解約返廃金が最良推定負債を上回る契約の40% (団体年金等は70%)が。直ちに解約。 これらの最大値。
事業費リスク	各経過年の事業費が10%増加。 インフレ率が1%上昇。	周左
疾病リスク	発生率が初年度35%増加、次年度以降25%増加。	発生率が初年度35%増加、次年度以降25%増加。 回復率が20%減少。

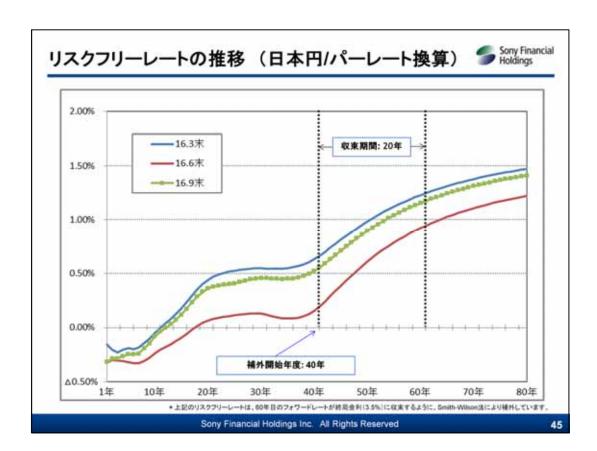
(注1) 2016年9月末現在、主要な項目。

(注2) ソニー生命は個別契約毎の大小比較を実施。

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved











46



お問い合わせ先: ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 TEL:03-5290-6500(代表)